



妙たえの光ひかり

通刊48号 復刊27号

1999年10月8日 (季刊)

角田山妙光寺 発行
新潟県西蒲原郡巻町
角田浜 〒953-0011
TEL 0256-77-2025

川ガニ

境内を流れる宮沢は、平成三年に改修工事がなされて立派な川になった。それまで幅一疋余りの土水路で、三〇四年に一度氾濫して境内がボートを出すほどの水に悩まされてきた。

この沢には昔から沢ガニ、螢、山椒魚、ドジョウが生息することは知っていたが、まさか川ガニが住むとは思ってもよらなかった。甲羅が七センチもあるりっぱな体型で、元氣一杯。捕まえようとするとハサミを持ち上げて威嚇してきた。

この夏のある日、川底に堆積した泥をあげて掃除して見つけたもので、全部で五匹もいた。「海に通じている川にはたいがいいる」と聞いたことはある。でもこの先の下流は藪になった水溜まりと、二百年近いヒューム管があつて、その出口から海面まで二メートルの落差で直接水が落ちてゐる。どうやって海からのぼつてきたのか、すごい生命力だ。

質問に答えて

小川英爾

お盆の棚経に伺ったあるお宅で「お忙しいのはわかるがお聞きしたいことがあって、メモ書きしてあるのでそれだけでも教えて」と、いくつかの質問をいただきました。それらも含めて、よく尋ねられることを今回まとめてみました。

質問 昔から私たちが法華宗かと思ってきましたが、そうではなくて日蓮宗が正しいというのがわかりました。

これはどう違うのでしょうか。

答え 大きく言えば法華宗で間違いはありません。ところが明治から昭和初期にかけて、鬼踊りで知られる三条本成寺を中心に分派した側が法華宗と名乗ったことから、身延山を中心にした側が日蓮宗と名乗ったいきさつがあります。妙光寺は身延派ですから日蓮宗ということになります。ところが妙光寺も本成寺も同じ日印上人が建てられた兄弟のような関係で、今年十一月には本成寺から百人の参拝が予定されるなど交流は続いています。

質問 毎朝家のお仏壇でお経をあげていますが、正式にはどのお経をどんな順番で読んだらいいのでしょうか。

答え お経を唱える法要はどんな場合でも、①仏様をお迎えする②お経を読む③お経の功德を捧げる主旨を伝える、この三つの構成になっています。時間の長短によって②のお経を多く読むか、少なくするかが違います。お経には一から二十八まで番号がありますから順序は番号順です。分かり易いのは以前妙光寺で作ったお経本ですが、なくなりましたので、本堂工事の記念に再度作って配布したいと考えています。

質問 東京の親戚がお葬式で戒名料が要るとお寺から言われましたが、妙光寺では聞いたことがありません。どうなっているんでしょう。

答え 日蓮宗では戒名でなく法号といい、お釈迦様の弟子となって修行の道に入る誓いをたてた証に住職が授ける名前をいいます。そのためのお金は不要です。東京に限らず、亡くなってから初めてお寺に行つて「戒名を付けてくれ」と言われれば「せめて寺にお金を寄付する修行をしてください」という意味で言われることはあるかも知れません。お金で買うものではないことは当然です。東京でも私の親しいお寺では戒名料などありません。

質問 その戒名を、葬式のときでなく生きておるときに付けていただいた知人がいます。なんだか縁起でもないように思うのですが。

答え 生前に付けるのが本来の趣旨であることは、前の説明でわかってもらえるとと思います。檀家というのは信者ですから、皆生前に法号が付いているはずなんです。実際にはそれがなから、亡くなって葬式であわて付けているのが今の姿です。妙光寺ではなんとか本来の形にしたいと考えています。

質問 法事を予定していますが、命日より前にしないといけないと聞きました。本当ですか。

答え そんなことはありません。命日をひとつの目安にして、関係者もつとも都合のいい日を選んでいたらいいことです。とかく命日が過ぎるとズルズル先伸ばししがちなのが人の常、これを戒める意味で昔のひと言が言ったのではないのでしょうか。ただ一周忌は命日に近い方が、より気持ちを込めやすいということはあると思います。

質問 よそのお寺では毎月の命日に月お経に回ってきてくれます。どうして妙光寺では来てくれないのですか。

答え 昔は妙光寺にも前寺や説教所といって幾人もの僧侶がいて、檀家の月お経に回っていたようです。それが住職一人になって、寺と檀家が離れていることもありできませんでした。ただ現在は鎌田がおりますので、希望されるお宅には毎月伺っています。遠慮なくお申し出ください。

質問 妙光寺の鎌田さんも修行されて一人前のお坊さんになられたようですが、今まで通り「鎌田さん」とい
う呼び方でいいのでしょうか。教えてください。

答え 確におっしゃる通りで、鎌田も正式な資格を得ています。日蓮宗ではこの場合「鎌田上人」か、また
は少し親しみを込めて「お上人（しようにん）様」と呼びます。妙光寺での役職をはっきり決めて、その
肩書きで呼ぶことも考えています。たとえば昔あった前寺の住職は「寺家様（じけさま）」と呼んでいま
した。それまでは前述のようにお願いします。

質問 「安穩廟」は跡継ぎのいない人のためのお墓と思っていました。でもそうでない、跡継ぎのある方も多
いのですがどういことなのでしょう。それと、どこから納骨するのか知人に聞かれて答えられません
でした。教えてください。

答え これまで墓は跡継ぎがいて供養を続けることで成り立ってきました。しかし子供が少なく、仮に男の子
がいても跡を継ぐ保障もない時代です、跡継ぎの有る無しにかかわらず、将来も心配のない、皆で供養し
合う墓が「安穩廟」です。いわゆる無縁供養の墓ではありません。

個別の区画ごとに区切られているので、納骨は上のサツキの木を一度抜いて土を掘り、底にある石の蓋
をはぐって行います。終了後また蓋をして土と木を埋め戻します。

質問 御前様が「娘に婿をとらせて次の住職にするつもりはない」と言っておられました。では妙光寺の次の
住職はどうなるんでしょう。

答え 妙光寺は私で五十三代目ですが、血の繋がった親子で跡を継いだのは初めてです。世襲制ではなく、住
職が勝手に跡継ぎを決められない規則になっています。そこで次の住職は広く募集して、より優秀な人を
檀家の皆さんが採用試験で決めたいと思います。募集のときにりっぱな僧侶がたくさん集まっ
くれる、それだけの魅力ある寺にするのが私の夢です。

信 心

夫婦そろって

松山講中

妙光寺の檀家は集落ごとに分散して、町部を除けば十〜二十軒ほどにまとまっている。そこに一人ないし二人の世話人がいて、寺との連絡役を担っている。この地区の代表となる世話人が互選で総代を選出して、総代世話人会議が妙光寺の実質的決定機関だ。

地区には講中という檀家の集まりがあつて、これが江戸時代から続いている。いまでも毎月集まつてお経を読んだり、年に一度は旅行に行く講中もあれば、春秋の二回集まるところ、活動がお休み状態のところもある。

なかでも松山講中はユニークで、法事をする家がその前夜に会場となつて集まることになっている。だから八軒あるなかで、法事がなければ二年も集

まる機会がないし、法事が続くときには月に三回集まるなんてこともある。

一般に自宅で法事を行うときは、仏壇とは別に床の間に祭壇を飾るのがしきたりとしてある。それも近頃は少なくなつてきた。松山講中では祭壇一式を共同で持っている。前日からこの祭壇を飾り、その前夜は講中のお勤め当日は親戚が集まつての法事というわけだ。

もうひとつユニークなのが、他では出席が一軒から一人だが、松山講中は夫婦での出席が多いこと。取り決めてあるわけではないが「父ちゃん行くよ」と、奥さんが誘ってくる人が多いようだ。「一人でも多いほうが賑やかでいいな」と、話はずむ気楽で楽しい

集まりになつていく。

それだけに寺との連絡も密で、行事や団体参拝旅行の参加者が多いのもこの特徴。「おと年の中国旅行が忘れられない。パスポートの有効期間がまだあるんだからまた行きたい」と元気な声も聞こえてくる。



夏から秋へ



年末か来年早々には業者選考を予定しています。多数の業者から受注申し込みがあり、会議で厳正に審査のうえ決定します。

身延、房総参拝旅行満員です。

先般ご案内した身延山、房州誕生寺、清澄寺、十月の団体参拝旅行は、おかげさまで五十人の参加申し込みがありました。六十人乗り二階建てバスで参ります。二階席が五十人定員ですので満席です。

八月一日お盆賑わう

八月一日のお盆墓参りと施餓鬼法要が、今年の日曜日と重なりいつも増して賑わいました。駐車場の混雑が心配で白線で枠を引いたら、皆さん車をきちんと止めて、とてもスムーズでした。

本堂のお参りも大勢で、この本堂でのお盆も最後と思うと名残惜しい思いを感じていたようです。



本堂工事経過報告

引き続き新たな寄付申し込みをい

ただいでます。九月二十五日現在で

※寄付申し込み総額

二億二千五百九十六万七千五百円

※入金済金額

一億一千三百八万八千八百八十円

七月初旬に、本堂の

建つ場所をボーリングによる地質調査を行いました。岩盤の上で砂地だから申し分ないと予想していましたが、結果は特別良くも悪くもないとのこと。昔は沢筋だったようで、軟らかい粘土が地下に堆積していることがわかりました。

本堂前の水屋手洗い

以前本堂前参道脇の水屋に、手を洗ったり口をすすぐ水を出していました。この当時は寺のはすべてが井戸水だったので、常時出しっぱなしでも電気料金だけしかかかりませんでした。ところが町の上水道が引かれて加入しからは、水道料金がかり、出しっぱなしができません。

そこで山の沢水を濾過して引いてくる装置をつけましたが、すぐに詰まったり大水で壊れたり、とても現実的ではなく放置してきました。

しかし再三「行事のときだけでも水を出したら」との声をいただき、方策を考えてきました。

今回、以前使用していた古い井戸にパイプを入れてポンプで汲み上げたところ、きれいな水が出て使用可能と判断しました。早速電気工事をしてタイマーで昼間だけポンプが動いて水が出るようになりました。

ところが地下水に鉄分が異常に多く混じるようになって、水がオレンジ色なうえ異物も含まれます。また濾過装置かとも考えましたが、経費がかかるのでしばらく様子をみることにします。

岩屋七面様のぼり旗奉納受付

岩屋入り口に並べるのぼり旗の、来年度分を受け付けています。一本二千元で、お名前を書き入れて奉納します。五十本限りですのでお早めをお願いします。

宮沢の水路掃除

境内を流れる宮沢は、勾配をゆるく工事したため、土砂が溜まりやすくなっています。八月末に巻町馬堀の檀家で本多さん父子三人が、二台の小型ユンボを使って土砂の除去作業を奉仕してくださいました。

作業の前に、水路にいて螢の餌となるカワニナをいったん集めるなど、細



かいところまで配慮が行き届いて驚かされました。表紙の川ガニはこのときの話です。

自然観察会

妙光寺境内は近年話題になっている

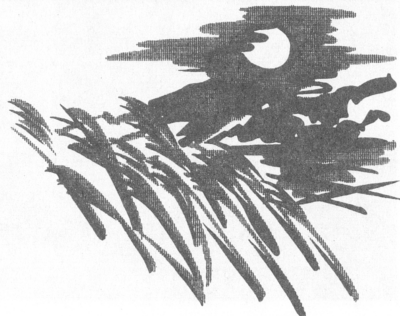
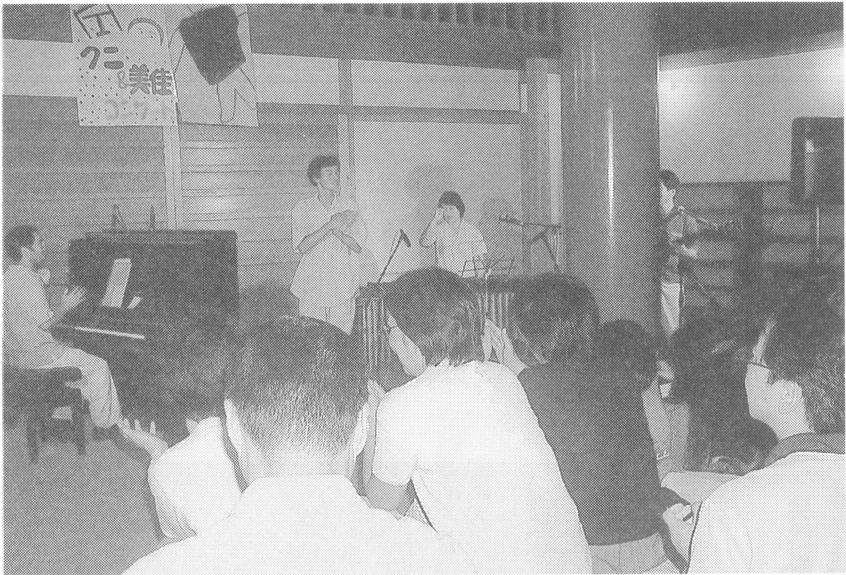
里山の自然が豊富なうえ、観察しやすいことで知られています。九月のある日の夕方、県自然観察指導員の案内で、二十人ほどの親子が秋の虫とムササビ、タヌキの観察を楽しみました。

夕暮れの境内、松の木のほころから顔を出したムササビの顔を双眼鏡でぞいて「かわいい！」と声をあげていました。

秋の夜のコンサート

九月のある夜、巻町の音楽グループ主催で玄関を会場にコンサートを開きました。NHKで活躍したりレコード大賞も受賞された、作曲家のクニ河内さんの唄とピアノ、それに野田美佳さんのマリンバ。

あいにくの雨でしたが四十人あまりの人が、土間と高い天井に優しく響く音楽を心行くまで堪能しました。昨年に続いての二回目、二人の音楽家が妙光寺をとても気に入ったのだそうです。



フェスティバルと四基目

第十回目のフェスティバル安穩が八月二十八、九日に開かれました。

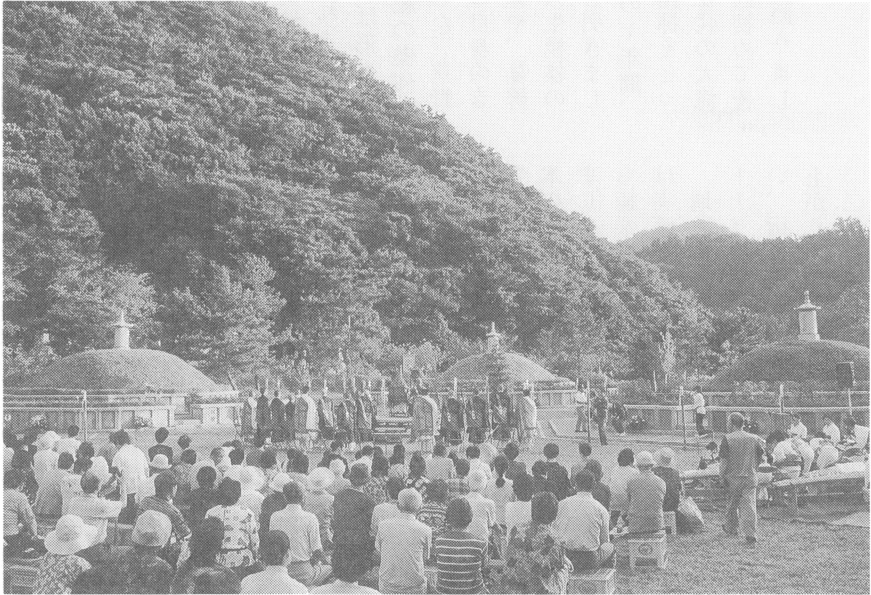
「寺と墓が作った新しい絆」をテーマに、ゲストは樋口恵子（評論家）谷嘉代子（京都女の碑の会代表）草野栄應（仏教情報センター事務局長、真言宗明治寺住職）の各氏。それに十回目を記念して、韓国留学中のチベット人仏教僧とその指導教授お二人。司会役に井上治代（ノンフィクション作家）碑文谷創（雑誌編集長）のお二人。そうそうたる顔ぶれでした。

テーマがやや地味でもあり、前日から当日昼前まで激しい雨で参加人数を心配しました。しかし会場は昨年を越すかと思うほどの人で埋まりました。

スタッフも含めると三百人以上です。

事前にお聞きした各地の安穩会員七人の声をテープで流し、その後ゲストの語り合い。休憩をはさんで会場から発言を受けて、ゲストが答えるかたちでの三時間があつたという間でした。

ご多忙で体調も悪いなかおいでくださった樋口さんでしたが、高齢社会での生き方と介護保険、また「安穩廟」の社会的意義についての熱っぽい





語りに会場が涌きました。また二回目の気安さもあってか、最近亡くなられたお連れ合いの思い出話も共感を呼びました。

同じく二回目の谷さんは、独身女性の墓を京都に作られました。が、「安穩廟は形も自身も二十世紀の傑作」と話されました。草野栄應さんはご自身の寺の永代供養墓や、墓碑に刻まれた人生模様の語りが関心を引きました。またこの十年間、裏方で陣頭指揮をとってきた檀家総代の大滝さんが、今回初めて皆さんの前で語りました。

これまでの九回とも、雨で屋外の法要が流れたことはありません。しかしこの日は前日からの雨が昼前まで止まず予報も雨、大半の人があきらめていました。ところが昼過ぎには青空がのぞいて日もさし、見事夕方の法要にはすっかり晴れ上がりました。

身延山から来た、日蓮宗布教研修所の若い僧も加えた十八名の僧侶の読經に、二十数名の琴、十名の地元太鼓グループ。さらに檀家の角田浜講中の太鼓と、大法要です。

緑のなか雨上がりの爽やかな風に、数万枚の五色の華びらが舞い、百七十本の献灯ロケットがきれいに燃えつきました。興奮気味に「まるで生きながら極楽にいるようだった」との感想には実感がこもっていました。

地元のワインレストランでの懇親パーティーは百五十人が和やかに語り合い、宿舎での二次会も十二時まで盛り上がりました。

二日目は、妙光寺が昨年から国際援

助している若いチベット人僧侶のトツティン師。その留学先で韓国ソウル大学の教授のお二人に、日本側の僧侶を加えて、それぞれの国の仏教と寺の違いを話し合いました。会場からの質問もみじかな話題で、興味深いものでした。

「ゲストのお話に考えさせられることが多かった」「法要に感動して涙が出た」「たくさんの人の親切がうれしかった」「去年もよかったが、今年もおすばらしくかった」等々たくさんの感想をいただきました。

今年の分は計画がありませんが、今年の法要の全てを録音したCDができました。一枚千円です。また昨年のお仕事の毎日新聞での連載一年分を、十回記念としてコピーしました。来年にはこれに加筆して本にしますが、とりあえず欲しいと言う方は、五百円です。いずれもご希望の方は、送料八十円切手二枚を加えてお申し込みください。両方でも送料はこの金額です。

先般全会員の方にアンケートをお願いいたしました。ご面倒をおかけしたにもかかわらず、ご協力ありがとうございました。集計の中間報告をフェスティバル当日の資料にご報告しました。最終集計の後ご報告します。

安穩廟の一基目が十年を経て、苔などによる石の黒ずみが目に付きます。これを除去してさらに付きにくくする、画期的で安全な薬品を購入しました。秋の天候をみて作業します。

九月中旬で三基目の申込が百になりました。一基百八区画ですが、百になつたら残り八区画はすぐに欲しい方のための予備として、次の受付に入ると決めてあります。

現在行政の許可申請中ですし、使用規則の若干の変更も検討しています。こうした準備をへて十一月一日から予約受付を開始します。建設工事は平成十三年春着工、夏完成を予定しています。準会員で四基目をお考えの方、お待ちせしました。

当初の計画では、この四基目で全額の受付を終了する予定です。全く予想外の速さで事務が混乱して、一部の方にご迷惑をおかけしたり、とまどっています。



特別寄稿

安穩会員の伊藤さんから、貴重な体験をお願いして寄稿していただきました。

友人の死によせる

伊藤 キイ

先ず最初に妙光寺様にお詫びとお礼を申し上げます。友人の納骨に際し大変ご迷惑をおかけした事をお詫び申し上げます。そして友人の希望通り安穩廟に納骨出来ました事を厚くお礼申し上げます。

実は私と友人の交際は三十有余年になります。友人は独身で職業は教員でした。ご兄弟はおられたのですが皆県外で日常の行き来はあまりなく、特に晩年は入退院の繰り返しでした。しかし、ご

姉妹は見えられませんでした。ほとんど私共がお世話しました。最後の入院のときはご両親は勿論の事、長兄の方も既に亡くなられておりました。入院して一ヶ月程した時に自分の死後の事について色々話されました。

- 一・ 兄弟姉妹との関係の事。
 - 一・ 私の一番下の孫を養子にしてほしい事。
 - 一・ 自分の財産を私に寄贈する事。
- 後半の二点については絶対に駄目である旨固く涙

ながらに断りました。これ以外の事ならなんでもしてあげますと言ったのです。友人はしばらく考えてから少ない財産だけど、身体障害者の施設に寄付してほしいと言われました。私はそれは大変良い事なので必ず実現する旨約束しました。

友人は最後に角田山を背に日本海を眺められる安穩廟に静かにねむりたい。そして辞世の句をお墓に刻むよう言われ、死後の一切を頼むと言われたのです。その句は「一人一覚我が信念をつらぬき通し、今静かに此の世を去る」です。更に友人は「貴方には立派なご主人といってお子さんがおられるけど、私にはそれが無い。だが三十五年間心の支えはお宅だったのよ」と言ってベッドの上で両手について「ありがとう」と言って頭を下げられました。その時ひと筋の涙を見たのです。三十有余年の交際で涙を見たのは初めてでした。絶対に弱気を見せない気丈な人でした。友人は百日間の闘病の末亡くなられたのです。

友人が亡くなられて間もなく、妹さんの方から

遺骨を引き渡すよう家庭裁判所に調停を出され、その後財産も引き渡すようにとの裁判を起こされました。然し地裁、高裁ともに友人本人の書いた遺言状が勝ちましたが、更に最高裁に上告されたのです。ところが上告して間もなく妹さんが亡くなられ取り下げになりました。

此の間約五年と言う月日が流れ、裁判の経費等も大きく、又私共にとつては大きな時間の無駄と心労等で大変でした。だが七回忌並に永代供養等も約束通り無事済ませる事が出来ました。これも次兄の方がご健在で「遺言通りにしてやる事が本人への供養である」と言われ、ご協力を頂きました。

遺産は身体障害者の施設へと言う事ですので、私は友人の名前を残して上げようと思い、市生涯福祉課並に社会福祉協議会の方々と相談の上、友人名義の基金制度を設立して頂きました。友人と約束して満六年という月日が経ちましたが、今は約束を果たし得たという安堵の気持ちで一杯です。

そしてこの年になって仲々できない「裁判」と言

う大きな経験をさせてくれた友人に感謝し、友人の希望通りに全て終わった事を安穩廟にねむる友人に報告致しました。

最後に、現在は核家族そして少子化と言う時代に於いて自分はまだ大丈夫だと思っっているのではなく、健康でいるうちに自分の意志で書類等の作成をしておく事がいかに大切かと言う事を痛切に感じました。

特に安穩廟等を希望される場合、寺側に迷惑のからまないような配慮が必要だと思いました。私の友人の場合妹さんが某宗教の信者でしたので、妙光寺様に大変ご迷惑をおかけしたのです。

御住職様並びに奥様、本当にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。



秋を迎えて



暑い暑い夏が過ぎて、皆様もほっと一息というところでしょうか。お寺の夏は慌ただしく過ぎて、訪ねてくださった方、お電話くださった方に、何か失礼はなかったかと、涼しくなった季節に思い返しては反省をしています。

お彼岸が終わり、小学生がいなくなったために、学校や地域の行事もほとんどなく、束の間の静けさを楽しんでます。お寺の掃除や事務の仕事等やらなければならぬことはたくさんあるのですが、しばらく眼をつぶってしまおうと思っています。

本を読むとか、手芸をするとか、一人きりの孤独な時間を持つ事は、とても大事な時間のように思います。そし

て静かにいろいろなことを考えていると、自分の生き方について、何をすべきかについて、などに行き着いてしまっているのですが、それは、人と人と話し合うこと、心が通じたなどという実感、流れる血液の暖かさを感じる距離間が絶対に必要な気がします。

人の生き方に共感し、大切にすることが、自分の生き方を見つめ確立することの第一歩だと信じています。だから、たくさん人の集まる妙光寺の夏は私にとって、とても大切な修行の場になっています。

お寺に集まる方々は、一人暮らしの方から四世代の大家族の方までいろいろです。でも仏さまの前で祈る時は誰

でも一人です。その後で、みんなでやさやかな御飯を食べながらおしゃべりをし、お説教をお聞きし学ぶ。

世の中ではお寺に対する批判が厳しく、時には肩身のせまい思いをすることも多いのですが、こういうお寺の年中行事の持つ意味を考えたとき、行事に参加することの大きな価値がおおやけに評価されることのないことが残念でなりません。ですが、本当に価値があることや、必要とされているものは、ひっそりとしめやかに続いていくものかもしれません。

人とのより多くのふれあい、自身自身を深く見つめる。そして仏さまとの一対いちの対話、この三点セットで人生を乗り切ろうと思っています。

少し偉そうになってしまったことを許して下さい。でも言うじゃ無いですが、「門前の小僧習わぬ経を読む」と。私も妙光寺で十六年目を迎えました。

小川 なぎさ

行事案内

御会式(おえしき)と先代法要のご案内

弘安五年(一二八二)十月十三日にご入滅された、日蓮上人の第七百七回忌の法要を(お会式)、左記のように営みます。

併せて、来年は先代住職の二十七回忌に当たりますが、本堂工事中になりま
すので、繰り上げて執り行います。

お誘い合わせ、お参りいただきたくご案内いたします。

一・日時 十一月十四日(日)

午前十時三十分 法話

新潟東部布教師会長 新潟市妙覚寺住職

吉田 鍊勝 師

同 十一時三十分 法要

導師寺泊山法福寺

海津 英祥 師

午後十二時三十分 お齋

二・会場 妙光寺 TEL0256-77-2025

二・会費 一人 五千円(お齋料を含みます)

二・申込 準備の都合上、十一月八日までに各地区の世話人か、直接妙光寺へお申込ください。

※来年度の岩屋七面様上り旗、奉納受付中です。一本二千円。

※日蓮宗新聞をご購読の方は、代金三千六百円をお願いします。

あ・と・が・き



お彼岸前に発行したいと考えていましたが、とうとう間に合いませんでした。次回の行事は上にご案内のお会式と、先代住職の二十七回忌法要です。このとき母の三回忌も一緒に行いたいと思います。

今年は何回の行事が今の本堂の最後になるわけで、そのたびに感慨深い思いです。一年早いですが、先代の法事ができるのも縁を感じます。

皆さんのお参りをお待ちしています。
八年目二十七号を数えたこの「妙光」も、読んでいただいている手応えを最近とみに感じます。「楽しみにしている」という皆さんのお言葉が、何よりの励みです。
(小川)